

# INSPIRE No.30

ギフトッドサポートグループミーティング  
ギフトッドの子育てをしている方が集まるミーティングです。今回のテーマは「振り返り」です。良い体験は良い振り返りの機会と仕方によって、私たちのものになっていきます。

日時：9月10日(日)

時間：9:00 - 11:30

対象：保護者、教育関係者

費用：1,000円

場所：スクエア荏原in品川 第3小会議室

東京都品川区荏原4-5-28 (武蔵小山駅徒歩10分)



## Q. ギフトッドサポートグループとは何ですか？

アメリカにもギフトッドサポートセンターがあり、その室長をされているアンさんは、定期的にギフトッドサポートグループミーティングを開催しています。ミーティングでは、ギフトッドに関しての本を事前に参加者が読み、チャプター毎にディスカッションをしながら、ギフトッドに関しての知識を深めているようです。私たちのギフトッドサポートグループミーティング、通称GSGミーティングは、ギフトッドの子育てに必要な鍵コンセプトがあります。例えば、「快適ゾーン」や、「スマートに学ぶ」、「感情知性」などです。そういったコンセプトを一つ選び、ディスカッションを交えて、それらに関しての知識を深めていきます。日本においては、ギフトッドの子供だけでなく、子育てをしている保護者も孤立する傾向があります。だから、GSGミーティングは繋がる機会でもあります。ギフトッドの子供たちだけでなく、保護者も繋がる機会です。

## Q. 誰でも参加できますか。

はい、誰でも参加できます。ギフトッドの子供を育てている方だけではなく、育成している教師の方も参加しています。

## Q. 子供も一緒に参加できますか。

はい、ご一緒にお越し頂いても大丈夫です。ワークショップは大人向けですが、子供たちが遊んでいられるスペースやテーブルを確保いたします。

もう少しで夏休みです。夏休みは子供たちが大きく成長する機会です。どんな予定を立てていますか。よく、質問されるのが、「挑むって、どうやって挑めば良いのでしょうか」という質問です。非同期の成長をしているギフトッドにとって、単にアカデミックな分野で挑めば良いというわけではないですよね。得意分野で、より難しい物事にチャレンジしても、それはもしかしたら挑んでいる事にはならないかもしれません。それより、超簡単でも、やったことのない分野にチャレンジする方が、よほど、その子にとっては挑むことになるかもしれません。「初めてやった！」と、この夏、子供たちは何度言うのでしょうか。「あんな人たちと遊んだのは初めて」と、いつもの学校のソーシャルグループ以外での人たちと時間を過ごしたり。「初めて食べた」と普段食べない国の食べ物を食べたり。この夏、子供たちはどれくらいの「初めて」があるのでしょうか。この夏、子供たちに挑む時はアカデミックな面より、感情面や、社交面や、身体面で挑んでみてください。きっと夏休み明けは、自信満々で新学期を迎えるでしょう。大人は大変です。子供のように挑んでくれる人が周りにはいるわけではないので、自分で挑まなければなりません。何歳になっても「はじめて！」はたくさん欲しいものです。

NPO法人Feelosopher's Path Japan代表  
今瀬 博

## エスニックジョーク

あるユダヤ人男性が語ったジョーク

「日本人の妻を持ち中国人のコックを雇いイギリスの家に住みアメリカの給料をもらうのがこの世の幸せ♡

エスニックジョーク（民族性冗談）として、誰もが一度は耳にしたことはありませんか？

このジョークを知らない、当時15歳の子供が語った言葉を紹介します。

「アメリカで学び、日本で遊ぶ・食べる それが俺流！」

国外逃亡した子供ですが、よく考えると深イ話のような気がしませんか？

日本の親は、我が子がたったひとつのルールから外れたら、もうこの世の終わりみたいに感じてしまいます。少なくとも地方暮らしの私はそうでした。しかも就学中であればなおのこと、不登校・中退・編入・転校等、他の選択肢なんてすぐには考えられませんでした。

でも、世界的にみたらこんなジョークがあるってことは、日本国内に限らずなんにでも選択肢を世界に向けたら、全く問題にならなくなるのでは？

「日本で生まれ育ち住み学び働き、友も上司も部下もパートナーも両親も自分も当然日本人。日本から一歩も出たことない。」

これが普通ではなくなるのが本当の意味でのグローバル化ではないでしょうか？もちろんその要素が、親・出生・親の赴任先・学校・就職・結婚・人間関係等々、これからの子供たち、特にギフトッドにとっては、人生の段階で一つでも、外国要素が入っても全く問題ないと思います。短期の旅でも冒険でもなんでもいいのです。ギフトッドがどこかで外国要素を取り入れることは、彼らがラクになるキッカケになるような気がするのです。

日本の著名人や芸能人・有名人と言われる人たちは、ギフトッドかどうかは不明ですが、彼らのバックグラウンドをリサーチすると、たとえ純粋な日本人でも、また年配の方でさえも、結構高い確率でどこかに外国要素が入っていて、なるほどな～納得なのです。

今はちょっとキツイかもしれないギフトッド子育てですが、いずれにせよ親がとやかく言わなくとも、いつかは外国要素を自らが入れる日も近いかもしれません。そして、親子してうんとラクになれるかもしれませんね。

番外編 ある日本人女性の妄想

「イケメンイギリス紳士の夫を持ち日本人のコックを雇いオーストラリアの家に住みアメリカの給料をもらうのがこの世の幸せ♡（+イタリア人のボーイフレンドがいたら極上の幸せ♡）」 M.I

## 第4回ギフトッド教育カンファレンス2017は無事終了！

### みんな大きな学びやエネルギーを持って大海原へ～報告～

カンファレンスは交流の場であったり、その専門性に関して知識を増やす機会となる場合が多いです。しかし、私たちのカンファレンスは「成長の場」としたいという思いがあり、必ず、「成長枠」を考えてカンファレンスに挑みます。「成長枠」とはどういったことでしょうか。毎回、違うテーマで行うこともそうです。「昨年是这样だったから、きっと今年もこんな風になるのではないか」というアイデアはなく、カンファレンス自体が非常にオーガニックであり、どのようなエネルギーを生むかというのは未知の状態です。非常にオープンエンドです。今回のカンファレンスは「Beyond my imagination - 想像していた以上」のものとなり、非常に感動いたしました。カンファレンス後ではなく、カンファレンスの間に成長する。カンファレンスを通して成長するということができます。

パッションプレゼンテーションの1回目と2回目の始めに、一人ずつ発表することを考えていましたが、私は「1回目は、司会の森下くん。そして、2回目はきっと、誰かが手をあげるから、決めないで、聞いてみよう」という思いでした。皆さんもご存知の通り、プレゼンターの方々がそれぞれ情熱を持っていることを話してくださり、それが他のプレゼンターをインスパイアし続けましたね。これは、2日間という短い時間の中で、安心できる環境を、雰囲気を作りだした参加者の皆様のおかげだと思っております。そのおかげで、プレゼンターのボイスが強くなりました。より自分の好きなことに「Loud and Proud - 誇りを持って声を大きく」となりました。

4名の保護者の心温まるお話も、残念ながら、私はパッションプレゼンターだったので、直接聞く機会がなかったのですが、多くの参加者から感動したとフィードバックを頂きました。私が最後に話した「ギフトッドの多くは助けを求めることが苦手」ということがあります。これは私たち大人にも同じことが言えます。先生ですとか保護者の方ですとか、一人で生徒育成、子育てで悩んでいる方がいらっしゃいましたら、助けを求めてください。ほとんどの場合は助けを求められたことに対し、こちらが代わりにするということはありません。でも、気持ちを共有したり、一緒に考えたりすることはできます。ギフトッドは時に孤立する傾向がありますが、その場合は、育てている保護者も孤立する傾向にあります。ご存知のように、ギフトッド応援隊や親の会などがありますので、是非、参加してみてください。

阿部先生の振り返りも本当に素晴らしかったです。学校現場などでは、「活発なディスカッション」が見た目は良いかもしれませんが、実はその場合、自分の気持ちや意見より、相手の意見や気持ちを聞くことに重きがおかれ、貴重な振り返りの時間が取られてしまう場合があります。誰もが外交型の思考と内向型の思考を持っています。周りとは活発なディスカッションをするのであれば、必ずその前に自分と活発なディスカッションが必要です。それは側からみると非常に静かですが、それぞれの中で活発なディスカッションが繰り返されていたと思えました。

そして、田中さんのドリームマップです。今回のカンファレンスの体験も含め、現状の自分を見つめ、だからこそ考えられる未来の自分へのチャレンジ。みなさんのエネルギーに圧倒されました。2日目のあの時間帯からのアクティビティーというのは、参加者の疲労が出るだろうなと思っておりましたが、子供たちも含め、みなさんが活発にグループディスカッション、そして、一人ずつ共有している姿を見て、友達の輪の中にあるろうそくの炎のように、温かい環境ができていくからだと感じていました。

そして、パッションプレゼンターの方々です。今回、わけのわからないパッションプレゼンテーションというものに手をあげ、忙しい中、ボード作成をしたり、参加者が体験できるものを用意したり、どんな風に参加者と話そうかと考えたり、大変だったと思いますが、その分、自分の情熱を共有するときに必要なものが準備でき、「自分にイイネ」が出せ、ちょっとした自尊心と自信が生まれたのではないのでしょうか。成長ゾーンにいる、新しい自分が待っていて、「素敵だね！」と微笑んでくれたのではないのでしょうか。この、「ちょっとした」が実は非常に大きいのです。これからも、わけのわからないものに手をあげることができるかもしれません。夏にキャンプに行こうか迷っていたら、行ってみようかなと思うかもしれません。これは、私がよく話している「半年後のチャレンジ」に向けての少しの勇気となります。

「旬なもの」を考える。それは「必要としているものを育める機会」

「機会」の最大の敵、それは「あたりまえ」だということです。「その機会はまた訪れるだろう」という当たり前の思いです。「機会がまたドアをノックしてくれるだろう」という当たり前の思いです。「まずは、様子を見てから」「一回、他の人がやっているのを見てから」というのは、「必要としているものを育める機会」をどんどん逃していくアプローチです。日本は物に溢れています。レンタル倉庫がビジネスになるほどです。しかし、機会はそんなに溢れていません。全て一生に一度の機会です。「機会」は2度ありません。例えば、カンファレンスも同じテーマでは続けて行いませんので、来年はパッションプレゼンテーションという機会があるかどうかの保証はありません。だから、目の前にそういった「機会」が訪れたとき、「やっておけばよかった」と思わないように、その機会を考えなくてはなりません。じゃあ、その成長の機会を逃してしまったら？機会がドアをノックしてくれるのを待つのではなく、ドアを開け、飛び出してください。自分からその機会を掴みにいってください。皆さんもご存知の通り、機会というのはそういったものですよね。ほとんどの場合は自分から探したり、掴みにいったりします。機会がなければ、作れば良いのです。

スティーブ先生も話していたと思いますが、今は、子供たちが主導権を握るようになったと、長年、日本を定期的に訪れ、感じたことを話されていました。子供たちが主体的に物事に取り組むように、子供たちに主導権を与えてしまっているのではないのでしょうか。主体性と主導権はまったく異なるものです。もしかしたら、「子供が自分で選んだら、主体性を持ってやる」という思いがあるのではないのでしょうか。しかし、子供が主導権を握って選ぶこと、そこに成長はあるのでしょうか。快適ゾーンから飛び出す機会はあるのでしょうか。新しい魅力に出会うチャンスはあるのでしょうか。

子供の健康を考えた時、子供に好きなものだけ食べさせますか。

子供の教育を考えた時、子供に好きなことだけをさせますか。

例えば、医者が「お子様は緊急手術が必要です。」といったら、「先生、ちょっと待ってください。子供にやる気を聞いてみます」と尋ねますか。

しかし、子供の成長を考えた時、多くの子供は主体性でなく、主導権を握っているようです。「本人に聞いてみます。どうする？やる？やらない？」

私は教育の機会も死活問題だと思っています。それは、子供に主導権をもたせたことにより、教育がストップしてしまうケースを幾度も見てきているからです。

人生山あり谷ありです。ストップすることだってあります。教育を受けているからといって、本当に必要な教育を受けているとの保証もありません。じゃあ、不登校など、教育がストップした時、どうしたら、良いか。子供に主導権をもたせ続けますか？辛い時だからこそ、子供に理不尽になってもいいんです。それは愛情ある理不尽さです。

子供がチャレンジを選ぶとき、大抵は「できそうなこと」「楽しそうなこと」という2つのことで決めていませんか。そうすると、サプライズはないですね。ほとんどが想定内のこと。子供たちの快適ゾーンの中です。そして、保護者の快適ゾーンの中という場合もあります。保護者の快適ゾーンが小さいと、子供がチャレンジすることに、

「ウチの子にはまだ早いのでは？」という思いになる時があります。

それでは「Growth mind - 成長マインド」は育めません。

「絶対無理」だから、やる！

「やれるわけがない」だから、やる！

「やったことがない」だから、やる！

「恥ずかしい」だから、やる！

「それはきっと今の私に必要なだと思う」だから、やる！

例えば、今回、皆さんが書いてくださった多くの質問の半数は、ギフトッドか否かは関係ないものでした。

「好きなものを見つけられるようにどうやって助ける？」

「どうすれば情熱を見つけられるか」

「やる気スイッチの見つけ方」

「苦手なことは克服しなくていいのか」

「環境を変える必要があるかどうか」

「将来どんな大人になるか」

「ほめるポイント。直すポイント。」

「どんな学校がいいか。」

ギフトッドの子だから答えがないのではなく、私たち大人にも答えがないものばかりです。

「私はどうやって好きなものを見つけたのだろう」

「私はどうやってやる気スイッチを見つけたのだろう」

答えはありますか？

きっと答えを読んだとしても、頭では理解するだけとなり、なかなか実践して取り組めないことだと思います。

私たちは子供のためにという思いが先行し、自分たちが体験をせずに知識だけを集め、その知識で子供を育てがちです。

必要なのは、「経験をもとにした知識」です。自分たちが体験して色々な質問に答えていかななくてはなりません。

体験しながらであれば、自分にとってのベストの答えを提供できるでしょう。そして、子供たちはそんな親や先生を見て、自分にとってのベストの答えを探求するでしょう。何が正しい答えかよりも。

「子供が理解できるようになってほしい。子供が習得して行ってほしい。」というスタンスでは、ギフトッドとは向き合えないでしょう。私たちがこういった情報を「知っている」のではなく、大人が実践して、体験していること。体験し続けていることが必要不可欠です。私たちは常にロールモデルにならなくてはなりません。

ギフトッドの子供とは？ギフトッド教育って？とそこが気になりますが、本当に知っておくべき3つのことをおさらいします。

1. ギフトッドは教育用語。ギフトッドという言葉が発達障害を診断する言葉ではない。ギフトッドはギフトッドチャイルドの省略されたものであり、アメリカにおいては、義務教育の期間、すなわち、高校卒業までの教育用語。
2. 「アシンクロニ - 非同期」の成長をしている。知能面では年齢より数年も上、しかし他方で感情面は年齢相当など。
3. ギフトッドのラベルを剥がす。自分の魅力と才能を探求し、磨く。大人になってもなお、「ギフトッド」が自分を定義する一つであり続けてはならない。

また、皆様とお会いする日を楽しみにしております。その時は、皆様が子供とともに、快適ゾーンから飛び出し、新しい自分に出会い、魅力や才能を磨いているお土産話を楽しみにしております。

